

元IPCCメンバー・国立環境研究所 西岡秀三氏が語る  
**『温暖化は人為起源、不确实論争に終止符！』**  
 IPCC : Intergovernmental Panel on Climate Change (気候変動に関する政府間パネル)

和歌山県地球温暖化防止活動推進員の第4期養成講座が10月14日から始まりました。最初の講義は、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）評価報告書の代表執筆者を務めるなど、日本を代表する科学者として知られる国立環境研究所参与の西岡秀三さん。西岡さんは、地球温暖化の現状とそのメカニズム、また克服への方途について、帰りの列車ギリギリの時間まで熱っぽく語っていただきました。

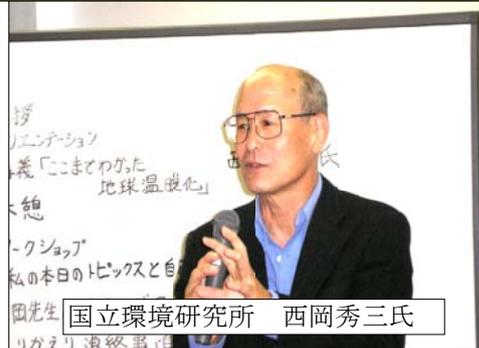
講義で西岡さんはまず、雪を頂く日本アルプス連山を背景に豊かな水田が広がる安曇野の写真を示し、安定した気候こそ人々の幸せな営みの基礎と解説、それは命を支える食料生産の基盤であるだけでなく、そこに暮らす人々の感性や文化をも創り出してきたとして、これを守る意義を強調されました。

そのうえで、西岡さんは今年公表されたIPCC第4次評価報告書に基づき地球温暖化の現状を説明。地球の平均気温が100年で0.74℃上昇していること（第3次評価報告書では0.6℃と発表）、しかも最近50年は上昇速度が2倍に加速していること、20世紀後半の北半球の平均気温は過去1300年間で最も高く、1850年以降で最も温暖な12年のうちに最近の11年が含まれていること、また積雪面積や極域の海水は縮小し続けており、北極海の晩夏の海氷は21世紀半ばまでに完全に消滅し

そうなこと等々、これまでに観測されたデータや現象などから、気候システムに温暖化が起こっていることにも

はや疑う余地はないとIPCCが断定するに至ったこと、さらにこうした急速な温暖化は自然要因のみでは説明できず、「人為起源の温室効果ガスの増加によってもたらされた可能性がかなり高い（90%以上の確率）」と判断していることを紹介されました。

地球温暖化の今後については、気温上昇にはすでに勢いがついており、ますますどのような対策を講じても2030年まで10年当たり0.2℃の気温上昇は避けられないこと、また現状の化石燃料に依存する経済発展社会が続けば今世紀末で4℃（2.4℃～6.4℃）、環境保全と経済発展が地球規模で両立する社会に転換したとしても1.8℃（1.1℃～2.9℃）平均気温が上昇するとの見通しを説明。さらに、温暖化の影響により陸地や海洋のCO2吸収量が減り、人為起源排出の大気中への残留が増加する恐れもあることから、一刻も早く方



国立環境研究所 西岡秀三氏

ふ、ふ、ふるって  
参加しよう！！

**「美しい地球を子どもたちに」**  
 高木善之（ネットワーク地球村代表）講演  
 2008年2月3日（日）13時田辺市「Big・U」  
 まだ高木さんの話を聞いたことがない方、ぜひお待ちしてま～す！

（仮称）「**乗って乗って貴志川線、公共交通機関を利用してCO2削減！**」  
 2008年1月27日（日）9時半JR和歌山駅集合  
 平池では土井先生のお話、ぜんざい・ミカンもあるよ！（先着60名）

**「いのちを未来に繋ぐために」**（仮称）  
 （省エネ家電講座2008）田中優氏 講演  
 2008年2月9日（土）13時30分  
 和歌山市勤労者総合センター6F

向を定めて温暖化の抑制に取り組む必要があると強調した  
うえ、こうした気候変化・被害加速の予測には不確実性が  
避けられないとして、より悪いケースを想定した予防的措  
置を講じる必要性があることも併せて訴えられました。

ここで西岡さんは、なぜ二酸化炭素などが温室効果を持  
つかのそもそも論に言及。地表面で反射された赤外線が、  
大気中のCO2分子を振動させて吸収され再放射されること  
で温室効果が発揮されると説明（もし温室効果がなければ  
地球の気温は-18℃）されました。

2004年の人為的な温室効果ガス排出はCO2換算で265  
億トン。これに対し陸地と海洋の吸収量は140億トン程度  
にとどまるため、この差が年々大気中に累積する結果、大  
気中のCO2濃度は毎年1.9ppmのペースで増加（産業革  
命前は280ppm、現在は386ppm）しています。西岡さんは、  
こうした現状をふまえたうえ、人為による気温上昇ひいて  
は大気中のCO2濃度上昇の抑制について、どの程度なら  
達成可能かが世界中で議論されていると説明。これまで世

界の科学者は温度上昇を2℃以下に抑えなければ危険と警  
鐘を鳴らしてきたが、すでにこの達成が困難になっている  
ことから、「CO2濃度で400~440ppm、気温上昇で2.4  
~2.8℃」が妥協値との意見が出ている現状を紹介されま  
した。

これでも2050年における世界のCO2排出量を1990年  
比で30~60%削減する必要があり、さらに先進国にはよ  
り大きな削減が求められることから、実現は容易ではあり  
ません。これについて西岡さんは、国立環境研究所や京都  
大学ほかから多くの科学者が参加し、ご自身が責任者とな  
ってまとめた『日本低炭素社会シナリオ』（07年2月）の内  
容を紹介しながら、それは可能と断言。その可能性を現実  
とするため国民の自覚の高まりと積極的な行動が求められ  
ているとして、この日の受講生をはじめ、地球温暖化防止  
活動推進員の活躍に期待していると激励の言葉を贈り、講  
演を結ばれました。



### **乗って乗って貴志川線 公共交通機関を利用してCO2削減！**

野上電鉄が廃線になって久しいですが、赤字を抱えたローカル線は全国的にいくつもあって、今後の行く末が厳しいといわれています。同じく、和歌山市から紀の川市に走る「貴志川線」も赤字を抱え、存続が危ぶまれましたが、市民や行政の働きかけもあって、ローカル線を大切にす岡山電鐵が、和歌山電鐵として貴志川線を運営することになり、ほっと胸をなでおろした市民が多いことと思います。赤字解消は、周辺住民が大いに利用することです。

CO2削減という温暖化防止の視点からも、貴志川線を大切にしなければなりません。WeNETでも、普及啓発事業の一環で「(仮称)乗って乗って貴志川線」というイベントを開催することになりました。子供や大人が一緒になって、貴志川線に乗って楽しい一日を過ごします。

終点「貴志駅」の近くにある平池をこども科学館の土井先生のお話を聞きながら、自然観察をしたり、「和歌山弁でエコ俳句」を創ったり、西貴志コミセンでは楽しい自然学習教室も予定しています。また、地元の「大西農園グループ」の皆さんの協力で、ぜんざい・みかん等も用意しています。<注>イベント日時&集合場所：2008年1月27日〔日〕午前9時30分（JR和歌山駅西改札口前）※貸切り電車の利用は先着60名です。申し込みは、事務局まで。

皆さん、貴志川線の「イチゴ電車」「おもちゃ電車」もう知っていますか？ 乗った人はみんな顔が笑顔になること請け合いです。ぜひ、乗ってみましょう！

### **7年ぶり、県内で高木義之氏の講演会開催決定！ 「美しい地球を子どもたちに」講演開催のお知らせ**

日時：平成20年2月3日（日）13：00開演

会場：田辺市新庄町「和歌山県情報交流センター

Big・U」1F 多目的ホール

主催 紀南地域地球温暖化対策協議会

◆講師プロフィール◆

NPO法人ネットワーク

『地球村』代表 高木善之氏

「美しい地球を子どもたちに」と呼びかけ、環境と平和を中心に社会問題や生き方について多くの講演を続けている。

1947年大阪生まれ、大阪大学卒業、松下電器産業在職28年、退社後は講演や執筆活動に専念。地球環境、生き方、人間関係などの講演、研修、WSの講師。著書は「新地球村宣言」・「非対立の生き方」・「本当の自分」など多数。さて、皆様方の中にも高木さんのことをご存知の方も多数いらっしゃると思いますが、まだ講演を聴いたことがない方も、ご家族、友人、大切な方をお誘いになってお越しください。ゴミ、ダイオキシン、環境ホルモンなど身近な話題から地球環境まで、環境破壊の現状とその根本原因、そして『私たちに何ができるか』を分かりやすくお話していただきます。私たちの未来、子どもたちの未来をともに考えてみませんか？またスタッフも募集しています。当日お手伝いいただける方、お待ちしております。 実行委員長 多田祐之



## クローズアップ！ わたしたちの活動 (8)

このコーナーはわかやま環境ネットワークに参加する団体や企業、個人の活動記録と今後の展望を紹介します。

### 財団法人 雑賀技術研究所

財団法人雑賀技術研究所は、米の中に混入している小石などの異物を完全に除去する自動石抜撰穀機を発明した雑賀慶二会長（＝(株)東洋精米機製作所代表取締役社長）から寄付された数多くの工業所有権を基本財産として昭和38年4月9日に設立されました。



雑賀会長は、その後の無洗米や金芽米の発明でも知られますが、自らの実体験を通じて当時、優れた発明家の育成や、発明思想、工業所有権制度を普及啓発する機関の必要性を痛感したことから、これを担う公益団体として本所を設立する

に至ったものです。

以来本所は一貫して、発明の奨励普及、創造性育成、優れた発明家に対する援助と指導や相談、科学技術振興団体への助成等の事業を推進するとともに、県内産業に役立つ工業技術の開発を支援してきましたが、現在はこれらの事業を「技術・開発」「食品化学」「振興事業」の三部門に分けて実施しています。



シトラスセンサー

まず技術開発部門では、前述の無洗米をはじめ、米の味を実測する食味実測システム「味度メーター」、柑橘類の糖度等の内部品質を非破壊で自動検定し選別できる「シトラスセンサー」など食品分野の各種機械装置やシステムを多数発明してきたほか、残留農薬分析等をスピードアップする周辺機器や測定装置も開発しています。

次いで食品化学部門は、食品の残留農薬等を高次

元な分析技術で一斉に迅速（最短3日）に分析する「MAPS」（残留農薬・多成分一斉分析サービス）を開発普及し、広く食品安全の確保に貢献してきました。これと併せ、土壌、水中等環境中の残留農薬等の分析も行っています。



また振興事業部門では、技術開発支援制度を設け技術・資金両面で意欲ある技術者への援助を積極的に行っています。また、次代を担う子供たちに、工夫する心、創造する心を培う活動として、「私たちのくふう展」「和歌山市少年少女発明クラブ」に協賛するほか、企業・市民に先端技術を紹介する講演会、科学イベント等も開催しています。特に最近では、地元の国立大学法人和歌山大学の地域振興・人材育成活動に協力し、「和歌山大学・学生自主創造科学センター（クリエ）」への協賛や「おもしろ科学まつり」の共催を行っております。

さらに、地域における環境貢献事業として、和歌山放送で毎週日曜午前11時10分からオンエアされる『和歌山環境ジャーナル』のスポンサーを務めるほか、環境保全活動支援センターを通じての環境NPO等への活動資金援助などにも取り組んできました。



地球規模でますます深刻の度を加える環境危機に直面する21世紀。本所は設立以来の信条である独自性と創造性を発揮し、次世代を担う発明や新技術を創出することで、人－自然－社会がともに生きられる世界の建設に貢献したいと考えています。

財団法人 雑賀技術研究所  
〒640-8341 和歌山市黒田75-2  
電話 (073) 474-0860  
FAX (073) 474-0862



## ボタンのかけ違い

1. 地域の家庭を訪問して、地球温暖化防止CO2対策としての省エネルギーをお話し、環境家計簿の記入をお願いした時の某家庭での事です。

その家庭は確定申告のため、電気・水道・ガス・ガソリン等の使用量はご主人が管理されておられます。

説明のあと、「地球にやさしく、家計にやさしく」とわかりやすく簡単にまとめたのですが、「僕は電気代位支払える収入はありますから・・・」 「・・・・・・・・・・」

2. テレビ和歌山で、”STOP地球温暖化！私たちはアースセイバー”（和歌山県作成）のビデオが放映されました。このビデオは、地球環境の修復と保全について和歌山県の現状を交えて構成されています。そのビデオ中で、私が家庭で取り組んでいるエコライフ（省エネ等）についてくわしく実践している姿が紹介されました。放映を見た友人の感想です。「あそこまで節約せんなんか？と家内と話したんやけど」「・・・・・・・・」

エコライフは「ケチケチライフ」でなく「生活（省エネ等）に知恵と工夫を・・・」という姿勢なのに残念なことです。

以上約四年前に私が経験したエピソードです。

最近では、小学校から大学まで一貫して環境教育が重要視され、また一般市民や消費者の間では環境意識が高まってきています。さらに企業でも環境報告書を発行するところも増え、環境対策を真剣に取り組むようになってきました。

今の私たちは、あまりにも人間本意で強欲です。「もっと便利に」「もっと新しく」「もっと楽に」「もっとほしい」、つねに「もっともっと」です。自分たちの暮らしを見直し、豊かで健康的な生活が過せるよう努めましょう。

## ◆事務局だより◆

写真（下）は、このほど完成した和歌山県地球温暖化防止活動推進センター（略号：WaCCA）特製バンダナです。

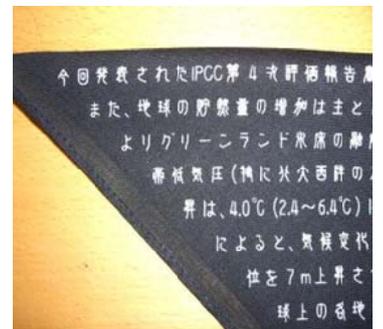


センターでは、地球温暖化防止に向けたキャンペーンとして、県内各地で開催されるお祭りイベントにブースを出しての啓発活動を進めている

のですが、その中で「誘導尋問的アンケート(^\_^;)」に回答して下さった方に差し上げるノベルティグッズ（いわゆる粗品ですね）として作成した品です。

黒と赤の2色があり、人力（Human Power）と大書した文字の下に、今年2月2日、気象の専門家たちが国民に温暖化阻止への行動を呼びかけた「科学者から国民への緊急メッセージ」の抜粋が、ちょっと凝った書体で染め抜いてあります。

「人力」は、今を生きる人々の知恵と力だけが温暖化を阻止できる拠り所であることをシンボリックに表現。びっしりと書きこまれたメッセージは、お遍路さんがよく持ち歩く般若心経の手ぬぐいみたい…とか、魔除けの経文を全身に書いた耳なし法一を連想…なんて声もありましたけれど(^\_^;)、判じ文字を解読するようにつぶさに読んでいただいて、地球温暖化問題への関心を深めてもらう意図を込めています。お遍路さんの手ぬぐい同様、持ち歩いていただければ、きっと功德があると思います。（重栖）



## NPOわかやま環境ネットワーク通信「ういねっと」 第8号（2007年11月10日発行）

発行：NPOわかやま環境ネットワーク

代表理事 重栖 隆 事務局長 前岡正男

事務局：〒641-0051 和歌山市西高松1-6-4 栗栖ビル2F

電話073-432-0234 FAX073-421-6545

e-mail wenet@vaw.ne.jp

HP-URL <http://wenet.info/>（新しくなりました）

活動に参加して下さる会員を募集しています！

【年会費】 運営会員（個人・NPO・学校）・・・ 3,000円  
（事業者・公共団体）・・・ 10,000円  
一般会員（個人・NPO・学校）・・・ 3,000円  
（事業者・公共団体）・・・ 10,000円

※詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

## 事務局地図

